



Ho! ManaBU しんぶん

2011.6.15 No.31

子どもの笑顔に会うために！



さすが！レベル1 認定者

～ アセラ小学校での「Discover our school」研修視察 ～

昨年開催のワークショップから約6ヶ月。各県のパイロットクラスター・リソース・センター(CRC)から研修報告書(研修ごと)や進捗報告書(半年に1回)が提出されてきました。5月末時点で、研修報告書(パートI)提出が59CRC、同報告書(パートII)が48CRC、進捗報告書を提出した学校は34CRCとなっています。

「既に8回もHo! ManaBU研修(HM研修)を実施」や「衛星校5校でも実施」というCRC担当官もいます。日当が出ないにもかかわらず、地域住民に呼びかけ、研修を実施するだけでもすごいのに、期限前(オロミア州教育局:OEBへの提出は7月)に進捗報告書まで提出してくるCRCもいて、本当に頭が下がる思いです。

研修を実施していることは大歓迎ですが...、実は...これまでの「Discover our school」の視察を通し、「???」と思ったことも何度かあります。例えば、研修手順は、10の質問を1問ごとに、1)ファシリテーターが問題を読む、2)参加者がグループで協議、3)グループごとの回答を提示、4)グループごとの回答を助手がフィードバック書式に記入、4)学校が選択した回答を伝えその理由を述べる、5)HMマークをシートに置く、6)正解したグループのスコアフリップに一点加える(シートをめくる)といった様々な作業があるため、ファシリテーターおよび助手は作業をこなすことが精一杯で、肝心の「学校が調査し、現状分析し、その結果を関係者(地域住民)に共有する」という目的が、今ひとつ達成できていないのかも...という印象を持った視察も散見されました。

そうした中、「研修マニュアルを暗記するほど繰り返し読むこと」を武器(秘訣)に、HM研修ファシリテーション・レベル1の認定を受けたアセラ小学校CRC担当官のモハammad氏(しんぶん29号参照)から、「Discover our schoolのパートIIを実施するので、視察に来ませんか?」という連絡を受け、彼の研修を視察すれば、問題点も明確になる!と思い、ハウイとともに視察に出かけました。では、おなじみの会話形式で...(野邊Fira、五十嵐Hawi)

F:アセラ小学校の研修視察について、率直な感想は?

H:さすがはモハammadさん。メリハリがあるというか、最初の導入部分の研修の説明は短くまとめ、途中の議論にはたっぷり時間をかけて、地域住民の意見をうまく引き出していましたね。

F:これまでの視察で散見された課題は、研修そのものではなく、ファシリテーターの力量によること、はっきりしたね。研修マニュアルを熟読することや、研修の事前準備をしっかりとやるといった基本的な心構えを、再度徹底する必要性を感じたな。

H:確かに、基本も大事ですが、前にフラも言っていたように、グループのスコアを競うための作業に手間がかかることは否めないし、ゲーム形式に固執しなくてもいいのかな?

F:それは一理ある。スコアフリップを外すのも一手かもね。モニタリングや報告書を通して検討し、菊池ガラナとも相談して決めましょう!ところで、最初の第一問のトイレに関する議論は、面白いというか、改めてこの研修のすごさを、感じましたね。

H:そうそう。学校が選択した回答と、地域住民が選んだ回答に違いがあって、激論になったんですね。ファシリテーターの説明では「約半年前に実施した研修パートIで、教員が調査し分析して、5択から学校の現状に最も近い回答を、協議して選択した時は、男児用と女児用のトイレが別れていなかったため、『共同トイレがある』という回答を選択した。」「その後、男女別々にトイレがあることが好ましいということになり、現在は男女別のトイレがある。」

「だから、現状と食い違いがあった。」ということで、結局、今回のパートIIでは、現状に最も近い回答を、合意に変更したんですね。つまり、パートIの調査・分析・議論がきっかけで、パートIIに移行する前の短期間のうちに、学校環境が改善したという証明ですよ。素直に、「すごいな!」と思いました。



F: いやー、本当にすごいよ。けど、もっとすごい! と思ったのは、研修終了後にモハマッド担当官と協議している際、プロジェクトスタッフから「学校が選択した回答は、環境が変わった時点で変更した方がいい。」というコメントに対し、「研修マニュアルに、半年毎に改訂することが望ましいと書かれているので、もうすぐ改訂する予定だった。」という返事があり、本当に、マニュアル暗記してるんだな! と感心してしまいました。

H: 確かに、マニュアルに書きましたよね。彼に言われて思い出しましたが... (笑)。研修の話に戻りますが、第二問の学校と家の距離でも、学校を選択した回答に対し、「2 時間以上かけて、通学する児童を知っている」という保護者の意見もあり、教員だけで調査や分析しても、それが正解だとは限らないことを、改めて感じました。

F: そのとおり。研修後の協議でも提案したけど、そうした意見が出た場合は「何年何組の誰?」と質問し、後日確認を行い、事実であれば学校が選択した回答を変更したらいい。いずれにしても、すべての質問に対して、活発な議論がなされていたよね。

H: モハマッド担当官のスキルが高いから、議論も活発になるという印象とともに、やはりアセラ小学校の地域住民の意識レベルも高いなーと痛感しました。もちろん、彼も言っていたように、HM 研修を通して、地域住民が変化しているのでしょうか。

F: そうなんだよねー。例えば、グループで協議して、この質問の回答はこれだ! と決める過程で、きちんと議論し確信を持って選択した場合、学校側の回答と相違があると、今回の研修のように、それぞれのトピックの議論の中身が濃くなるんだよね。一方で、「5 択の回答の、たぶん 2 か 3 番のどちらかだよ!」といった話し合いで回答を決めた場合は、学校側の回答を示されても、「あー、そうか! 残念」くらいで議論にもなりえないからね。



H: そういう意味では、地域住民の意識の違いで、研修の中身も大きく変わっていく可能性は高いですね。そのためには、ファシリテーターのスキル、特にどうやって地域住民の意見を引き出し、深い議論をさせるのかというスキルを、身につけて欲しいな。

F: 投稿雑誌 ODA (オダ) の第 3 号でファシリテーションのスキルを取り上げるのもいいかもね。他にも素晴らしいスキルを持つ CRC 担当官や校長・主任もいるだろうから、大々的に特集組んで...。ほら、エチオピアの人って、結構負けず嫌いな部分あるから、そんな人たちのスキルを ODA の中で褒めたら、みんなも真似して、ぐっとレベルが上がるかも...。想像しただけでワクワクするね!

Ho! ManaBU 訪問記

～ アセラ小学校での研修視察を通して ～

アセラ小学校の研修視察には、日本での教職の経験 36 年の東田さん (SV: シニアボランティア) と、同じく教職経験 6 年の雙田さん (JOCV: 青年海外協力隊) の 2 名が同行し、その感想を訪問記として投稿してくれました。

東田晴弘

SV 理数科教育、モジョ No1 小学校

今回のアセラ小学校での Ho! ManaBU 研修 (HM 研修) に参加させていただいたのは、専門家の方々の教育現場での活動を見て JOCV/SV が学ぶところが必ずあるはずだと考えていたことと、専門家と教育現場のボランティア隊員がお互いに意見交換する中で、双方の活動をより有効なものにしていく方向性を見出せるだろうと思ったからです。

30 名程度の保護者などが、学校での研修に参加することで、地域の人々の学校への関心が高まると同時に、学校側も考えていく課題を地域の方々から学ぶ手法に感じました。日本での 36 年間の教員生活の中で、保護者を集めて話し合う場は何度もありましたが、HM 研修のように保護者が積極的に自分の意見を述べる場面はそれほど経験してきませんでした。エチオピアの保護者のエネルギーを感じたひと時でした。水道の設備が整っているか否かについて、学校側の認識 (実情) と保護者側の認識が大きく食い違い、議論になったことが興味深かったです。

理科実験室は私の配属先の学校よりも立派な児童用のシンクも付いているのですが、断水であることと、蛇口自身が壊れて空周りをしていることを知りました。実際に、水を使って化学実験をやっていくことで、子ども達の笑顔を引き出せるまで研修を発展させると、エチオピアの教育界に与える影響力は計り知れないだろうと感じました。

理数科セミナーを理数科 JOCV/SV で進めようとしても、常に日当が出せるか出せないかでセミナーが延期になったり、また開催しても継続性が確保しにくいという課題を私たちボランティアは抱えています。

しかし、今回のHM研修への参加は、日当が出るわけでも食事が出るわけでもありません。またファシリテーターも日当をもらうわけではなく、研修を進行させているのは「それ自身が楽しいから」ということだそうです。理数科セミナーも、どんなセミナーなのかを事前に興味関心を持ってもらえるようなレター作りや、見せて終わるセミナーでなく、一緒に議論しながら実験を作りあげる研修にしたいという気持ちを強く持ちました。

専門家とボランティアがタッグを組んで意見交換しながらお互いの力を引き出しあうことで、エチオピアでの日本の税金の有効な使い方ができるかもしれないと感じた一日でした。エチオピアの教育改善に関わる各国の支援の仕方を学び検討しあう事や、「エチオピアの教員の労働条件改善もどうしていくのか」を外部条件とせず、それらを視野に入れた支援のあり方を、事務所・専門家・ボランティアで意見交換し続ける事が、これから求められるだろうと痛感しました。



雙田 茂樹
JOCV 体育、アヤルテナ中学校

私は大阪で6年間、保健体育科の教員をしてきた。教科の指導だけでなく、学校の全体に関わること、また府や市町村全体に関わることを仕事としてきた。そして、今現在、このエチオピアで保健体育科の教員をしている。日本でも課題は多々あったのだが、このエチオピアでも多くの課題と出会う。また、自分がこのエチオピアにきた意味を自問自答する日々を過ごしている。そんな中、野邊さん(フラ)にHM研修に誘っていただいた。結論から言うと、自分がこのエチオピアで何をしたいのか、何をすべきなのかなど、気づかせていただけた視察であった。

このHM研修の最大の魅力は大きく2つあると感じた。まず1つ目は、研修に参加している地域の方々、自分達で学校を作っていこう、育てていこうという姿勢を持てるように、作り上げられた内容だということだ。

このHM研修は全て、彼らの視点から始まり、彼らの言葉、意見で学校を育てる事ができるように組まれていた。また、わかりやすいようにゲーム形式で組まれていた。自分達で考え、自分達の意見を伝え合い、最終的に全体の意見へと発展させていく。最終的にまとまった意見は意味や意義を持った重みのある意見へと変わる。この意見が学校を動かしていく。だから彼らは、とても積極的かつ主体的に参加できているのだ。参加者の顔を見れば、どれだけこのHM研修が彼らにとっていいものなのか分かる。

そしてもう1つは、この研修が1回きりの勉強会の様なもので終わるのではなく、学校が、そして地域や保護者がこの研修後、なんらかの行動に移している点ですばらしいと思った。全員で作った意見が最終的に、具体的な成果として表れているのだ。今回の学校でいうと、トイレの改善について前回話し合ったそうだが、今回はその点が改善されていた。他の例としては、保護者向けに行われた中途退学に関するHM研修を開催した後、子どもが学校に来始めたという。

自分達で考え、行動に移したという事、そして結果が現れたということ、この経験が今後の学校の未来を大きく変えていくのだなと感じた。日本人がいなくても、この経験が学校を育てるのだと感じた。また、学校が勉強するだけの学校ではなく、子どもたち、先生、保護者、地域、そこに住むみんなで作っていく「みんなの願いのこもった学校」になっているように思えた。日本に帰った時に、希薄化が進む現代だが、自分もこういった学校づくりを行いたいと思った。また、悔しいが、自分達はまだまだ勉強不足だということを感じた。ただ、この1年間、模索し続け、自問自答を繰り返す日々が終わりを迎えたことも、一緒に感じる事ができた。これだけ一生懸命にがんばっている日本人がこのエチオピアにいるという事、これだけエチオピア人に寄り添った研修があるという事、がんばればエチオピア人にも伝わる、認められるという事もわかった。色々な意味で可能性を感じずにはいられない研修だった。どんな言い訳も通用しない国際協力のプロの世界がそこにはあった。

フラが何度も口にした「子どもの笑顔に会うために」という言葉。この言葉があれば、自分もまだまだやれと思えた1日だった。自分も早く彼らの笑顔と出たい。そう思うとわくわくして明日が待ち遠しい。

自分の残りの1年の活動を、エチオピア人が自分達の手で、自分達の国をどう作り上げていくことができるのか、少しずつでいいので、共に歩いていければよいなと思った。共に、何かを作り上げていく喜びを感じればと願う。

やっぱりオロミア州は広がった..!

～ ODA マガジンとポスター配布 ～

プロジェクトでは、学校現場の好事例や教員の悩み、意見など、教員の情報共有を促進するために、「ODA (オダ)」という投稿雑誌を発行しています。第1号は昨年9月に開催されたオロミア州教育フェスティバルの場で県教育事務所(ZEO)に手渡され、県下の郡・特別市教育事務所(WEO/STEO)を通じて、CRCや学校に配布されました。その後、第2号(OEB 局長インタビュー、教室での楽しいゲームの紹介、教員からの投稿エッセイなどを掲載)が今年2月に発行されました。プロジェクトでは、活動の広報を狙った「Our Community Our School」というHo! ManaBUポスターも同時期に作成し、ZEOやWEO/STEOの行政官を対象にOEBが四半期ごとに開催する報告会で、ODAとポスターをWEO/STEOに配布し、彼らから管轄下の学校やCRCへ配布してもらう計画でした。



素敵なキャラクター総揃いのHo! ManaBUポスター

しかーし! 5月になっても、この報告会がなかなか開かれない! 学校も7月から長い休暇に入ることから、プロジェクトでは、車両3台を使い、州内17県のうち、プロジェクトが支援する13県の233WEO/STEOに手分けして届けることにしました。

まずは、プロジェクトスタッフ総出で昨年度のOEBの教育統計をもとに、各WEO/STEOが管轄する学校数を調べ、学校数に応じてODAとポスターを分けてひもで縛り、届け先のWEOやSTEOの名前のラベル貼り。一方、運転手は、地図を見ながら、行く先々の道程や訪問順番などを決め、OEBからのWEO/STEO宛での配布指示レターとともに、プロジェクトの車両に積み込んで、いよいよ出発!

今回の配送先は、県下のすべてのWEO/STEO。もちろんプロジェクトの運転手にとっては、はじめて訪れる地域もたくさんありました。これらのWEO/STEOでODAマガジンやポスターにどのような反応を示すかと思っていましたが、運転手によると、「Ho! ManaBUのことはよく聞いている。どうして私たちの郡でやってくれないのか。」という質問を各地で受けたそうです。「OEB主体計画が始まったら、州全部

で行なうので、それまで、ちょっと待っていて。」と誇らしげに答えるあたりは、さすが我がHo! ManaBUの運転手です(笑)。雨季に入り、未舗装道路の走行は相当大変だったようです。場所によっては、昼食を取れるような場所がまったくなく、朝、パンと水を買って、車中で昼ごはんを食べたこともたびたびあったとか。大きな事故もなく、無事に配送が済んでホットしながらも、オロミア州全域で活動を行なうということは、つまり、こういうことなんだなあ、と改めてオロミア州の広さとそれを管轄していく難しさを感じました。



今回も全カラー10ページのODA第2号

前述のように、ODA第1号の配布は、ZEOを通じて行ないましたが、初めてのODA配布でODAの知名度もあまり高くなったということもあり、学校レベルへの配布率やODAの認知度はいまひとつでした。

今回は、WEO/STEOに直接届けたことで、学校への配送がより円滑に行なわれることを期待しています。上部機関から配布物がどのように学校に流れていくか、このあたりは、きちんとモニタリングしながら、これから、Ho! ManaBUのポスターが貼ってある学校やWEO/STEOを視察することを楽しみにしています。

帰任することになりました! by フラ

オロミア州の教育に関わって5年半。とにかく素敵なプロジェクトに従事でき、心許せる仲間にも出会い、カウンターパート機関・個人とも私のオロモ名「フラ(親戚)」のような関係が築け、学校レベルで数十回もHM研修を実施している多くのCRC担当官・校長・主任の熱意に心を熱くし、本当に充実した日々を過ごせたことに感謝しつつ、帰任させていただきます。

任期短縮という形での帰任は、決定した当の本人が一番驚いていますが、これも必然だと感じています。信頼するハウイとバシャドゥがいるからこそ、かわいい我が子(Ho! ManaBU)を託せますし、さらなる成長つまり飛躍を期待しています。

前教育案件のManaBUプロジェクトに赴任してから、号外も含めると通算58号のしんぶんを、毎月欠かさず作成し配信できたのは、読者の皆さんのおかげです。読者の皆さん、今後ともHMプロジェクトをよろしく願っています。ガラトーマ(ありがとう)。